

space in modern architecture.

## I. はじめに

広州は2000年以上の歴史を持ち、いろいろな伝統文化を持っています。昔から、広州はずっと中国と海外の貿易の港として重要な役割を果たしてきました。そのため、経済は繁栄し、飲食文化の発展を促進しました。まったく「食は広州にあり」と言われるとおりに、広州の飲食業が非常に盛んです。

広州の飲食文化といえば、「大排(木)当(ダイパイドン)」という昔ながらの屋台スタイルの店がその特色として挙げられます。ダイパイドンは広東語の発音です。その意味はつまり露天で粗末な店が並んでいるということで、昔は広い街頭や、広場、川沿いによく見られました。気安くて、便利で、安くて食べられる飲食スタイルとして、庶民に極人気がありました。ダイパイドンはすでに一つの地方文化として、地元の市民だけではなく、外来の観光客にとっても必ず体験する‘景観’になりました。

しかし、残念なことに、そういう地方の特色を持つ飲食スタイルは20世紀の末ごろ‘大都市化’建設の中で、政府の規制対象となり、徹底的に制限されました。その理由としては、ダイパイドンは廃棄物が多く、都市の衛生悪い影響をもたらす上、騒音を生み、周囲の市民の生活の妨げになり、管理しにくいという問題点が挙げられます。それは管理の面から言えば正確であるかもしれませんが、市民の楽しみを奪い、歴史的な民俗文化を捨ててしまうという面から言えば、いい政策とは言いがたいです。

そこで、ダイパイドンを例として、地方文化を保全しながら、都市管理を有効に進めるという両立の方

法を探り、都市の元気力を育み、都市の発展を図るには地方文化の発達が重要な一環であると究明しようとするのが本文の趣旨です。

## II. ダイパイドンの喚起

広州市は30年の改革開放を経て、都市の規模は30年の二十倍も大きくなり、人口も十倍増えました。今日の広州は1,200万人の人口を有する大都市に発展しました。都市の規模や都市の建築などのハードの施設は建設されつつあり、都市の景観と都市の生態環境も改善されつつあります。

ところで、ダイパイドンのような地方の伝統文化が重要視されていないところか、制限されるのがとても残念なことです。それは20世紀の末ごろのことですが、一切の室外の飲食店舗が徹底的に禁止されるようになり、全部室内の普通の店になりました。広州人が誇りを持つダイパイドンで夜食するという食習慣がそれから消えてしまいました。

しかし、街頭で食べる、という広州人の習慣はダイパイドンと共に消えてはいなく、今もよく見かける風景です。

われわれはダイパイドンに関して、112人の市民を対象にアンケート調査を行いました。112人の中に、77%の87人が、「伝統の民俗習慣を尊重すべきだ」と答えました。特に都市間の観光資源や旅行産業の競争が激しい現在には、都市の伝統民俗が発達しているかどうかは決め手となるはずです。

## III. 屋外のダイパイドンと室内の飲食店

	長所	短所
屋外のダイパイドン	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 自然・自由・観しい・気安い</li> <li>※ 消費コストが低い</li> <li>※ 都市への親近感を生みやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 衛生面では管理しにくい</li> <li>※ 都市の優雅な風景を破壊する</li> <li>※ 騒音が市民の生活を妨げる</li> </ul>
室内の飲食店	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 優雅・快適・天気に障害される心配はない</li> <li>※ 管理しやすい</li> <li>※ 環境への汚染が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 空間が限られ、重苦しい気分が生まれやすい</li> <li>※ 消費コストが高い</li> <li>※ 伝統文化の雰囲気がない</li> </ul>